

# ティルト機構付フルリクライニング車椅子

Elise  
エリゼ

取扱説明書

保存用  
保証書付



愛の輪  
愛のいす



MATSUNAGA

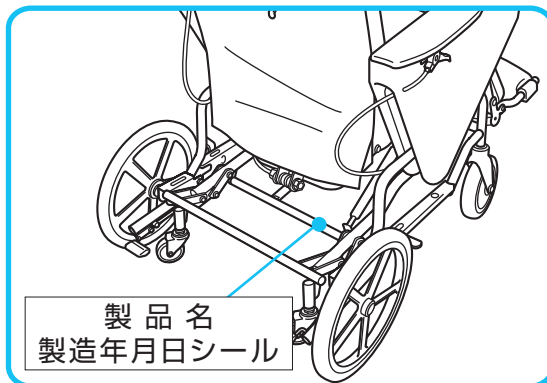
このたびは、(株)松永製作所の車椅子をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。

ご使用になる前に、必ずお読みください。

また、保証書(裏表紙)が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください。

車椅子が、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店にご相談ください。

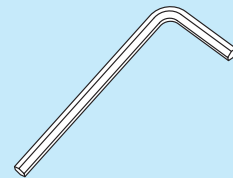
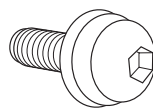


購入された製品の機種名をご確認ください。

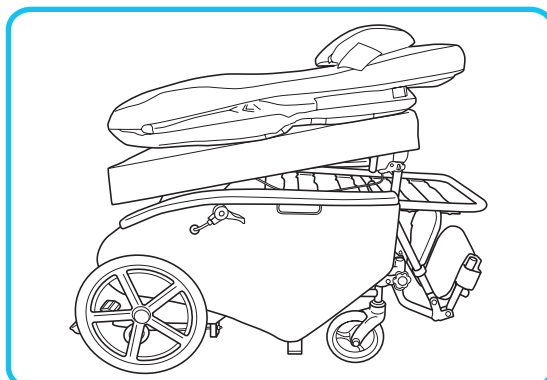
機種名は、左記位置に表示してあります。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

## 付属品



## 〈梱包状態〉




箱から出した時に表面のキズ、フレームのゆがみがないか、あるいはダンボール箱にへこみ、キズがないか確認してください。


異常があれば、お買い上げの販売店、または、弊社までご連絡ください。

# 目次


<b>安全にお使いになるためのご注意</b> .....	2
<b>各部の名称</b> .....	4
<b>機能説明</b> .....	5
<b>組み立て方法</b> .....	6
<b>安全にお使いになるための使用方法</b> .....	8
フットブレーキ .....	8
フットサポート .....	8
フットサポートの長さ調整 .....	9
アームサポート .....	10
リクライニングの操作方法 .....	11
ティルティングの操作方法 .....	11
座奥行の調整方法 .....	12
シートの調整方法 .....	12
リフトアップの操作方法 .....	13
<b>車椅子の使用方法</b> .....	14
介助の方法 .....	14
ご使用の前に .....	16
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b> .....	16
<b>車椅子のお手入れの方法</b> .....	17
保管場所・保証・アフターサービス .....	17
<b>空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法</b> .....	18
車椅子 点検シート .....	19
ガススプリングのご使用方法について .....	20
保証書 .....	20


# 安全にお使いになるためのご注意

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

## お守りいただく内容の説明

 この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。

 この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

## 警告

(禁止)



しては  
いけない

■故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。  
転倒・転落事故等によるケガの原因となります。

■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
フットブレーキのロックができなくなり、車椅子が不意に動き事故等の原因になります。  
また、タイヤのパンク原因になります。

■改造しないでください。  
改造によって車椅子の部品の破損、脱落などで安全性が低下して、転倒・転落事故等の原因となります。

■車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。  
転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



必ずして  
いただく

■車椅子への乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗時には必ずフットブレーキを左右両方ロックしてください。  
車椅子が動き、転倒事故等の原因となります。

■道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)  
道路交通法規を守らないと、交通事故等の原因となります。(車椅子は歩行者扱いです。)

■側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。  
車輪が溝にはまって転倒・転落事故等の原因となります。

## 注意

(禁止)



しては  
いけない

■車椅子に乗る時、降りる時に絶対にフットサポートの上で立ち上がらないでください。  
車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因になります。

■リフトアップ操作時には車椅子から手を離さないようにしてください。  
車椅子が動き危険です。

■スピードをつけて(勢いをつけて)、段差を乗り越えないでください。  
使用者がバランスを崩し、車椅子から転落する危険があります。

■グリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。  
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車椅子が破損し、転倒・転落事故等の原因となります。

■ストーブなど火気の近くに置かないでください。  
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因になります。

(禁止)



しては  
いけない

- リクライニングした状態で、バックサポートの上に乗らないでください。  
車椅子がバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。また、バックサポートパイプが曲がったり故障の原因となります。
- アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。  
ケガ、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- 車輪が回転しているときは、手や指を差し込まないでください。  
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。  
転倒事故等の原因となります。
- 使用者が車椅子に乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。  
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



必ずして  
いただく

- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。  
アームサポートの高さが急に変わり、手などを挟んだり、転落などの事故等原因になります。
- 車椅子に人が乗っている状態でアームサポートの高さ調整を行う場合には、手や衣服など挟まっていないか確認しながら操作してください。  
手や足などケガをする恐れがあります。
- 車椅子に人が乗っている状態でリクライニング操作を行うときには、使用者の体重が後方にかかるので、しっかりと支えてから行ってください。  
バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ったり、車椅子が後方に転倒し、ケガをする危険があります。
- 車椅子に人が乗っていない状態でティルティング操作を行うと、レバーを握るだけで、バックサポートが自動的に起き上がりますので、注意して操作してください。  
バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ちケガをする危険があります。
- 車椅子に人が乗っていない状態で、ティルティングの倒す操作を行うと、非常に重くなりますが、勢いをつけず、ゆっくり確実に支えて操作してください。  
キャスト(前輪)が浮き、後方に転倒する場合があります。
- ブレーキペダルとリフトアップバーを間違えないように注意してください。  
リフトアップ操作時にはフットブレーキが効かず車椅子が動きます。
- バックサポートを起こしてから段差を乗り越えるようにしてください。  
使用者がバランスを崩し、車椅子から転落する危険があります。
- フットサポートの上に足が乗っているか、確認して走行してください。  
足がキャスト(前輪)や地面に触れてケガをする危険があります。
- 移動中はつま先が壁などの障害物に当たらないように確認してください。  
足をケガする危険があります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。  
フットサポートが脱落し事故等の原因になります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。  
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故等の原因になります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。  
前向きで下ると、使用者がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。  
車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転落・転倒事故等の原因となります。



# 各部の名称

## 寸法表

機種	キャスタ (インチ)	主輪 (インチ)	前座高 (mm)	シート幅 (mm)	シート奥行 (mm)	アームサポート高 (mm)	バックサポート高 (mm)	フット長 (mm)	全長 (mm)	全高 (mm)	全幅 (mm)	リクライニング角 (°)	重量 (kg)
FR-31TR	6	12	475	400	400~420	0、40~240	850	335、355、375	1,180	1,240	650	100~175	36.5

※フット長:フットサポート・シート間距離

※寸法値は、リクライニング角度100°、ティルト角度0°、クッション上の数値です。

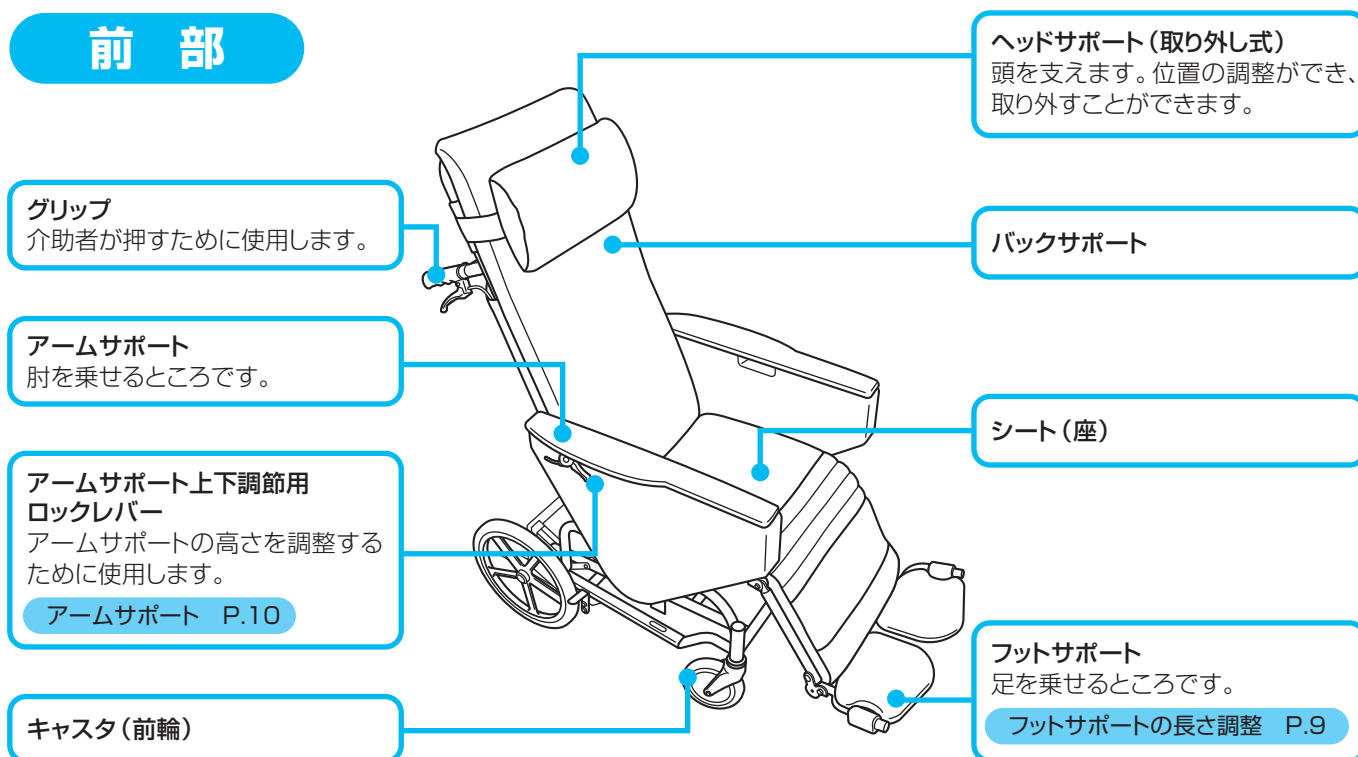
※アームサポート高は、25mmピッチの10段階です。

※フット長は、20mmピッチの3段階です。

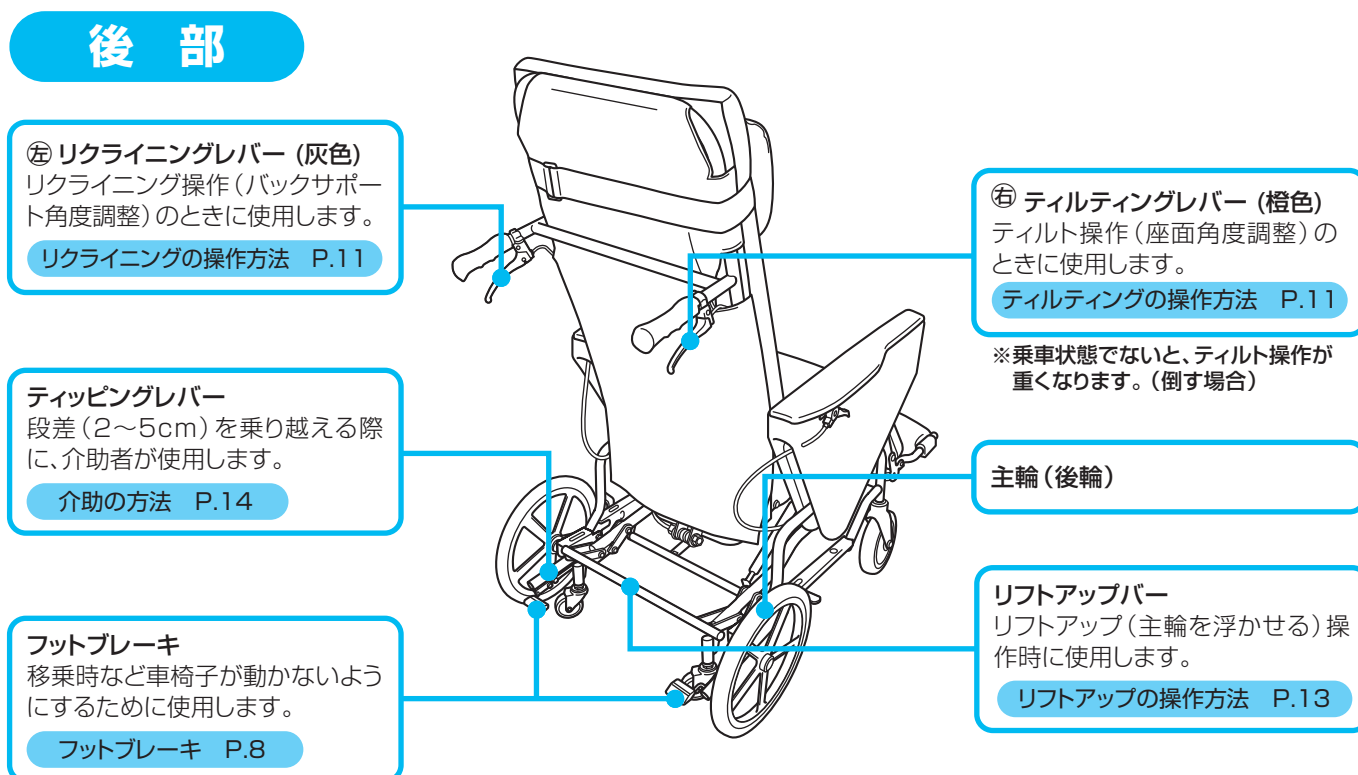
※シート奥行は、出荷時は410mmです。

※フルフラット時全長は、1,800mmです。

## 前部

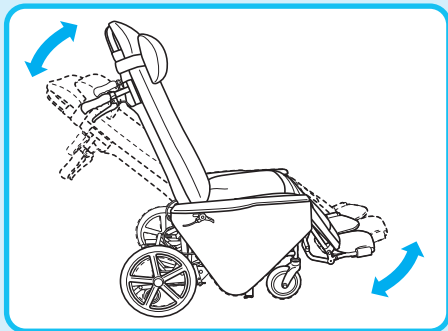


## 後部



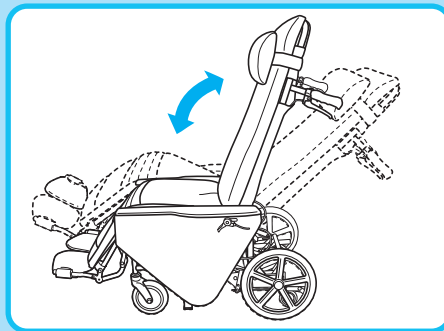
# 機能説明

## 〈リクライニング〉



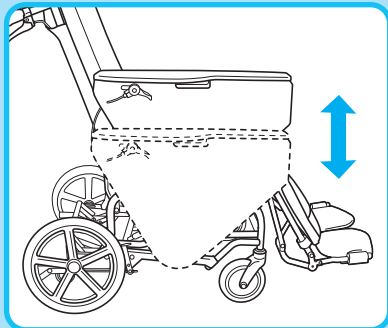
バックサポート角度を調節することができます。  
フット・レッグサポートは連動します。

## 〈ティルティング〉

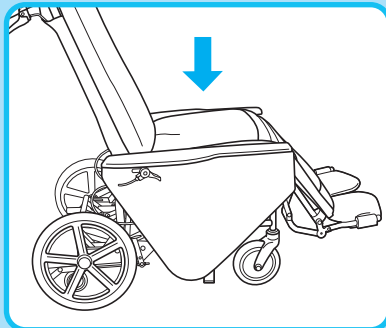


バックサポート角度を保ったまま座面の角度  
を調節することができます。

## 〈アームサポート〉

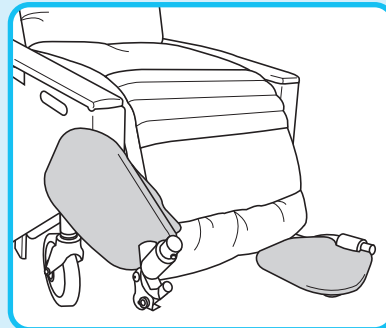


アームサポートの高さを調節することができ、  
使用者の体格に合わせるすることができます。



車椅子への移乗の時にアームサポートが邪魔に  
ならないように、座面の高さまで下がります。

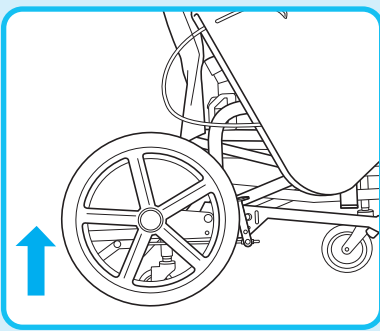
## 〈フットサポート〉



車椅子への移乗の時にフットサポートが介助者の  
邪魔にならないように折りたたむことができます。

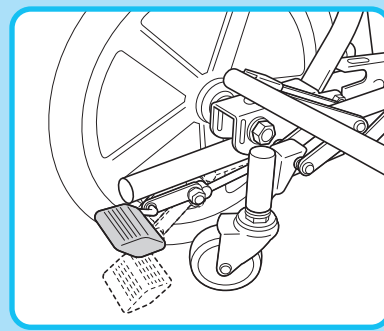
## 〈リフトアップ〉

車椅子主輪を浮かせることで、真横にも移動できます。ベッドなどへ近づく時に何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。



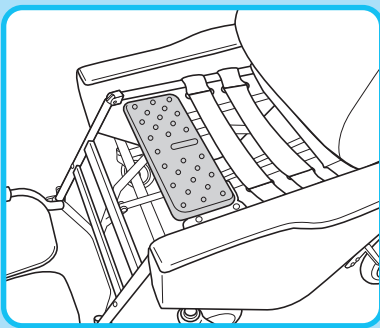
## 〈フットブレーキ〉

介助者が操作しやすい足踏み式のブレーキです。



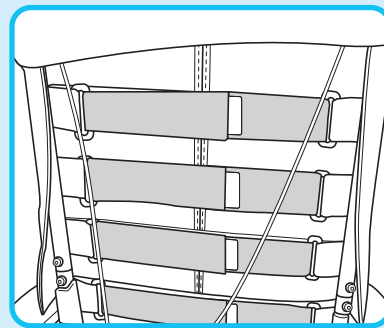
## 〈座奥行調整〉

使用者の体格に合わせて座奥行を調整することができます。



## 〈クッション&張り調節ベルト〉

ベルトの張り具合を調節し、使用者の姿勢に合わせるすることができます。また、厚手のクッションを使用し、快適にお座りいただけます。



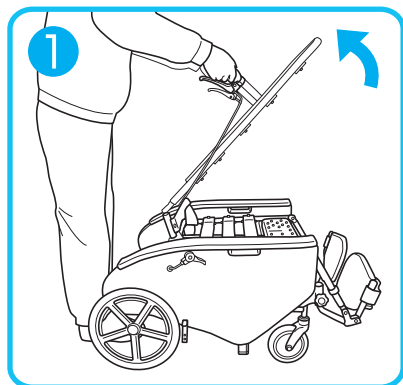
# 組み立て方法

## 使用工具

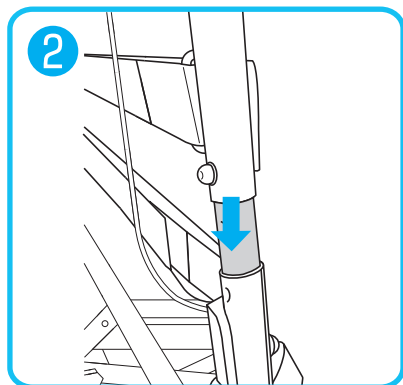
・対辺4mm六角レンチ

※適正トルク  
6Nm

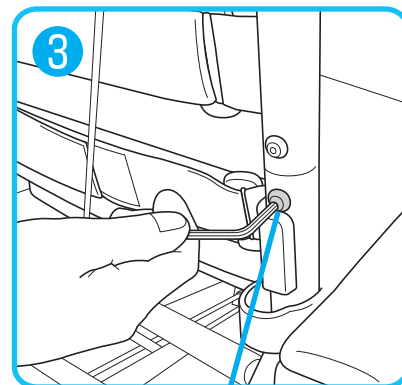
① バックサポートを持ち、矢印方向に起こしてください。



② 左右両側のパイプをゆっくりと同時に挿入します。



③ 付属のボルトを左右共締めてください。



④ バックサポートがぐらついたりしないか、しっかりと固定されていることを確認してください。

⑤ ワイヤが、折れたりねじれたりしないように注意して、組み立ててください。

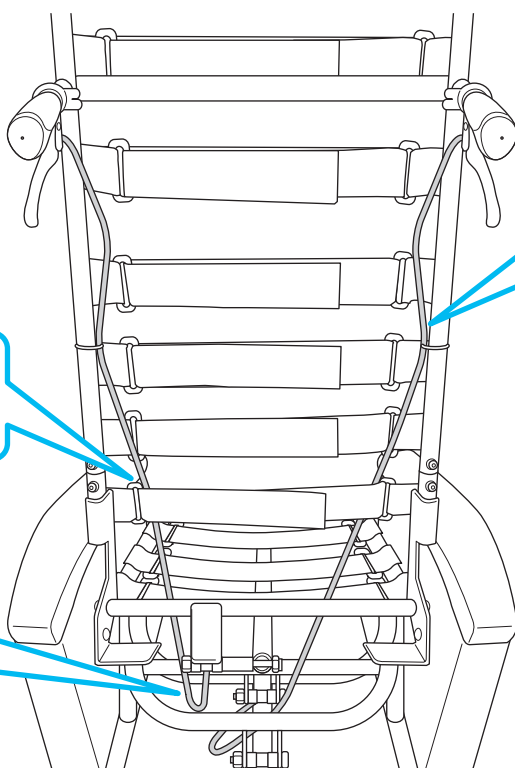
付属のボルト  
M6×15

## ⚠ 注意

- 組み立てたバックサポート部がしっかりと固定されているか、必ず確認してください。  
(バックサポート部が破損し、転倒・転落事故等の原因になります。)

していただく

※組み立てる際には、リクライニングとティルティングのワイヤの位置を下記のようにしてください。ワイヤ位置が異なると、リクライニング（ティルト）操作した場合にワイヤが引っ張られ、ロックが固定されない場合や、ワイヤを切断する恐れがあります。



バックサポートパイプの内側を通します。

張り調整ベルトの間を通します。

ワイヤのねじれ・折れ曲がりがないか確認します。

## ⚠ 注意

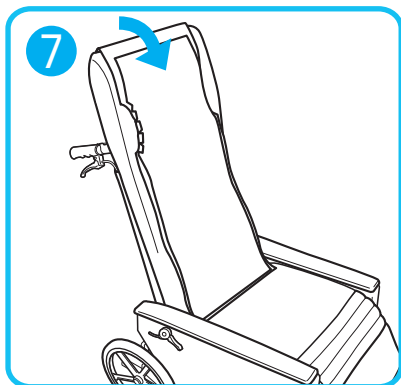
- リクライニング（ティルト）操作を行い、ワイヤの挟み込みがないか確認してください。

していただく

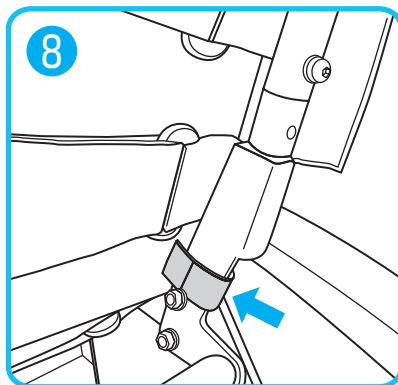


⑥ p.8を参照して、フットサポートを出してください。

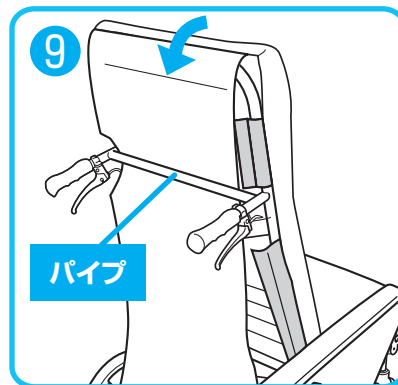
⑦ シートを車椅子に載せてください。  
(黒い薄生地は、前側に垂らしてください)



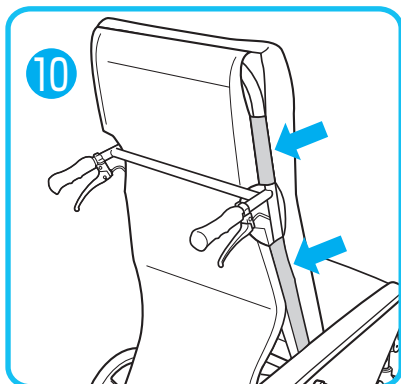
⑧ 背側の面ファスナーを固定してください。(パイプ下の板部分で固定してください)



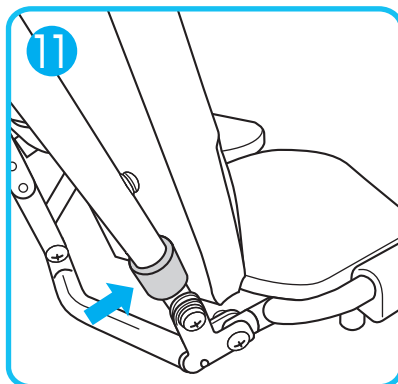
⑨ 前に垂らした黒い薄生地を後方に垂らしてください。(図のようにパイプの内側を通してください)



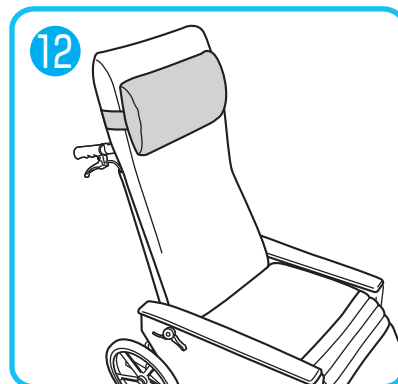
⑩ 背の後側の面ファスナーを左右それぞれ固定してください。



⑪ レッグサポート部の面ファスナーを固定してください。



⑫ 枕を適切な位置にベルトで固定してください。

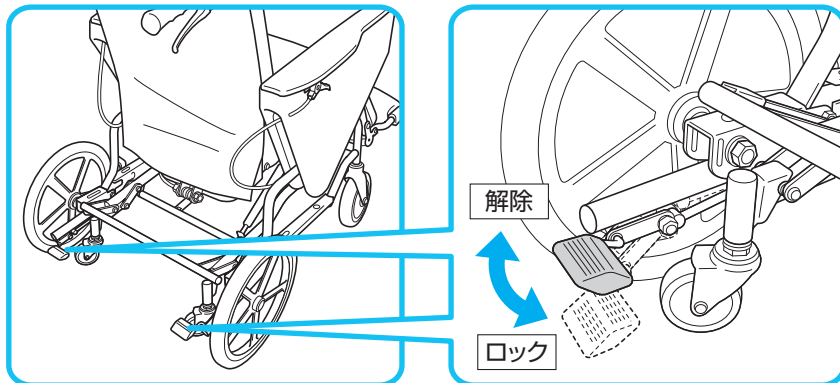


⑬ タイヤの空気圧を確認し、ブレーキの効き、各機能、各部の点検を行ってから使用してください。

# 安全にお使いになるための使用方法

## フットブレーキ

●介助者が操作しやすい足踏み式のブレーキです。ペダルを踏み込むとロックします。



### 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で使用しないでください。  
(フットブレーキが効かず車椅子が動き、事故等の原因になります。)

してはいけない

### 警告

- 車椅子への乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗時には必ずフットブレーキをロックしてください。
- フットブレーキは必ず左右両方ロックしてください。  
(車椅子が動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

### 警告

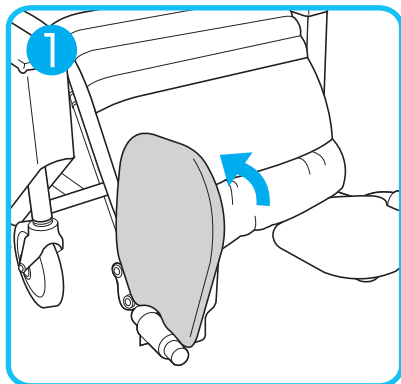
- リフトアップした状態で、車椅子への乗せ降ろし、ベッドなどへの移乗はしないでください。  
(リフトアップ操作時には、フットブレーキがロックされていても、主輪が浮いているため、車椅子が動きます。)

してはいけない

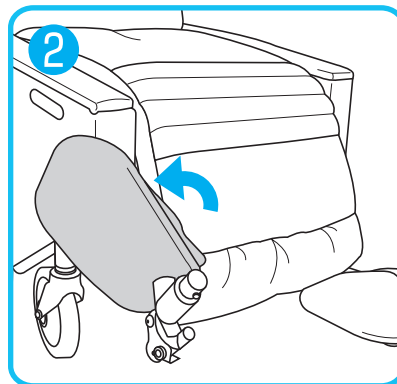
## フットサポート

●フットサポートを折りたたむことができるので、介助者の邪魔になりません。

① フットサポートを矢印方向に跳ね上げます。



② さらに矢印方向に回転させることができます。



●使用時には逆の手順でフットサポートを出してください。

してはいけない

### 警告

- フットサポートは、アームサポートより外側になるようにしてください。  
アームサポートを上下スライドさせる時に、挟まることになり破損の原因になります。
- 折りたたんだ状態で、リクライニング、ティルティング操作を行わないでください。

### 注意

- 車椅子への移乗時に絶対にフットサポートの上で立ち上がらないでください。  
(車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因になります。)

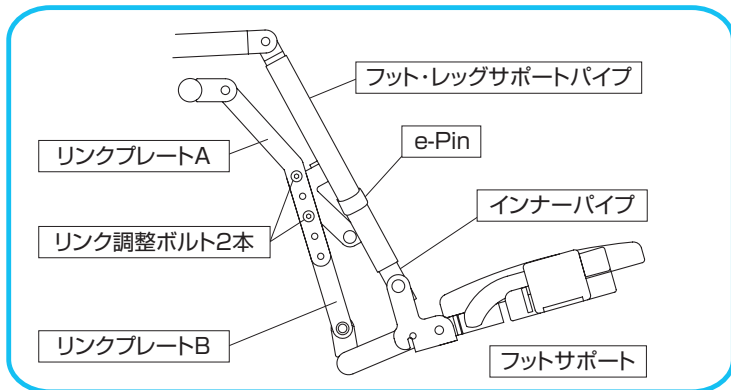
してはいけない

## フットサポートの長さ調節

使用工具

・対辺4mm六角レンチ

- フットサポートの長さを335, 355, 375mmの3段階に調整することができます。

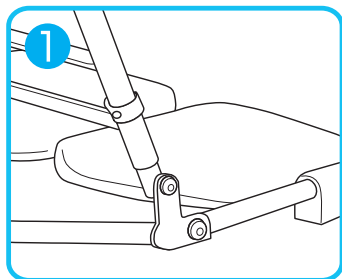


### ⚠ 注意

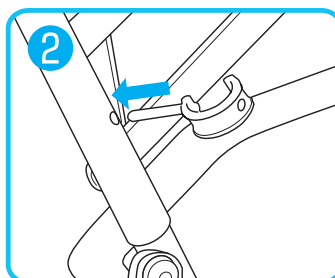
- 長さを調節した後、フットサポートがしっかり固定されているか必ず確認してください。  
(フットサポートが脱落・破損したり、ケガの原因になります。)

していただく

- 1 e-Pin をパイプから外します。



- 2 インナーパイプをスライドさせ長さを調整し、e-Pin を差し込み固定してください。(インナーパイプのスライドは左右同時に行ってください)



#### e-Pinの取り外し方



指を引っかけて矢印方向に回転させます。

引き抜きます。

#### e-Pinの取り付け方

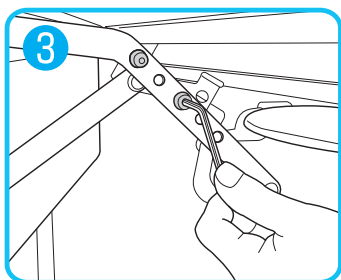


穴にピンを差し込みます。

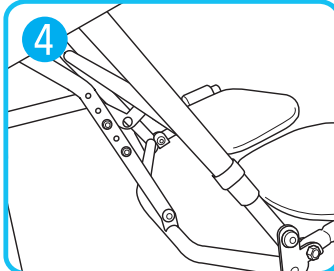
矢印方向に回転させます。

反対側の穴にピンの頭が出ていることを確認します。

- 3 リンク調整ボルトを取り外します。(2本)

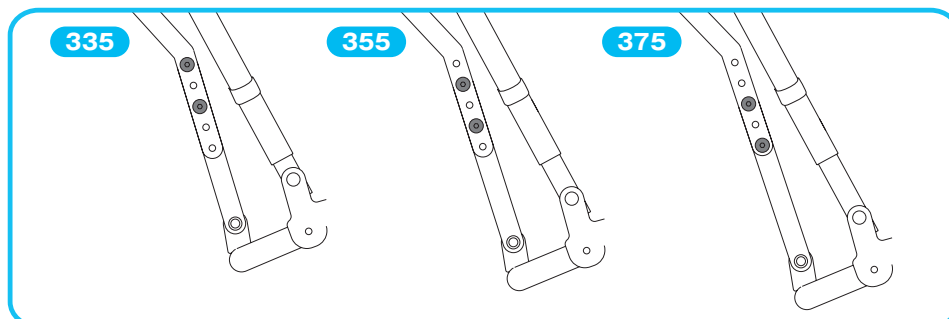


- 4 下のボルト位置の図のようにフットサポートの長さに合わせて、リンクの長さを調整しボルトを締めます。(2本)



※適正トルク  
6Nm

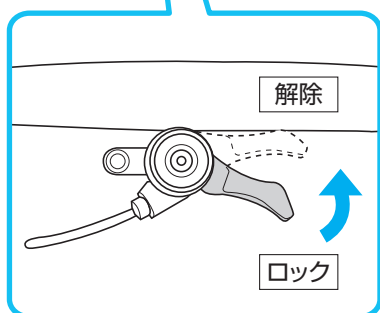
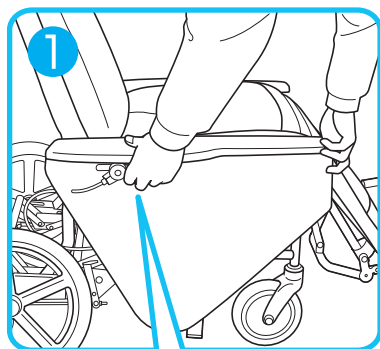
### 〈ボルト位置〉



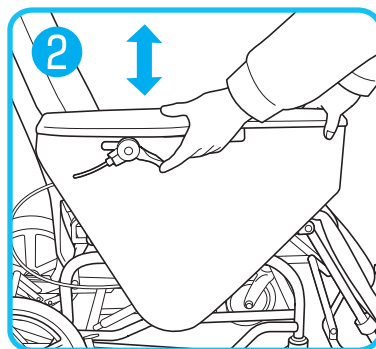
## アームサポート

- アームサポートの高さを0・40～240mmまで10段階(25mmピッチ)に調整することができます。
- ベッドなどへの移乗の際には、座面と同じ高さにあームサポートを下げることができ、介助を楽に行うことができます。

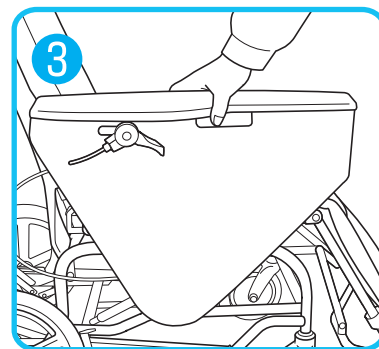
① 片方の手でアームサポートを持ち、もう一方の手でレバーを矢印方向に上げてください。



② アームサポートを適当な位置に上げ(下げ)レバーを離してゆっくりとアームサポートを下げ(上げ)ると「カチッ」と音がしてロックします。



③ アームサポートを上下に動かし、ロックしていることを確認してください。



### ⚠ 注意

- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。  
(アームサポートの高さが急に変わり、手などを挟んだり、転落の事故等の原因になります。)

していただく

### ⚠ 注意

- 車椅子に人が乗っている状態でアームサポートの高さ調整を行う場合には、手や衣服など挟まっていないか確認しながら操作してください。  
(手や足などケガをする恐れがあります。)

していただく

### ⚠ 注意

- 片方の手でアームサポートを支え、もう一方の手でレバー操作してください。  
(アームサポートが下がり、手や足などを挟みケガをする恐れがあります。)

していただく

### ⚠ 注意

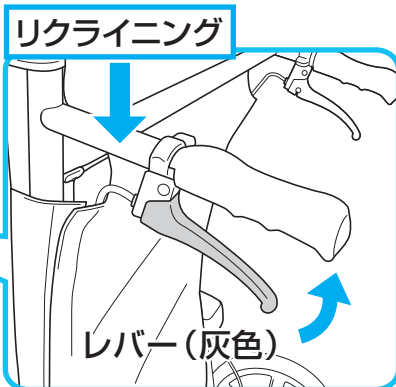
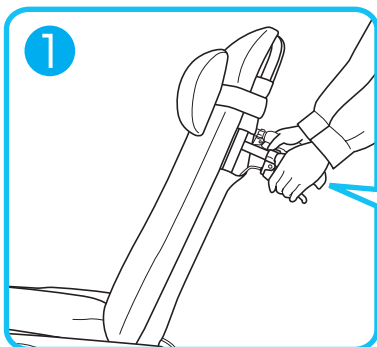
- アームサポートを持って車椅子を移動しないでください。  
(アームサポートが破損する原因になります。)

してはいけない

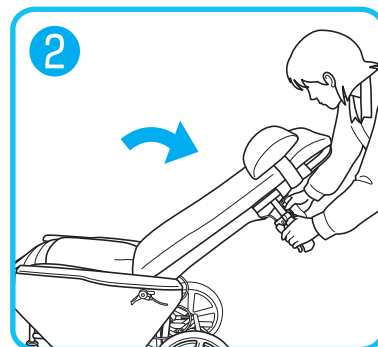
## リクライニングの操作方法

●バックサポートの角度を0~75°(座面に対して100~175°)の範囲で無段階に変更することができます。

① グリップをしっかりと持ち、左側リクライニングレバーを握ります。



② 適当な角度に倒し(起こし)レバーを離すとその位置で固定します。



### ⚠ 注意

●車椅子に人が乗っている状態でリクライニング操作を行うときには、使用者の体重が後方にかかるので、しっかりと支えてから行ってください。  
(バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ったり、車椅子が後方に転倒し、ケガをする危険があります。)

していただく

### ⚠ 警告

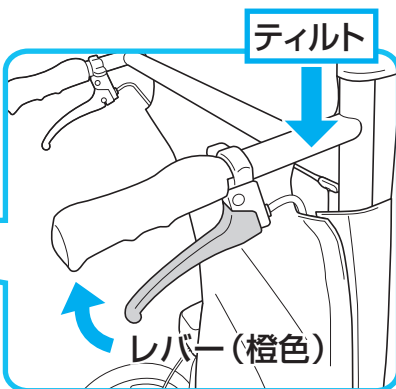
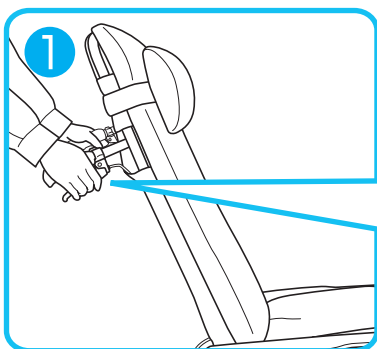
●車椅子に人が乗っている状態で、リクライニング操作又はティルティング操作を行うときは、アームサポートと、バックサポート、シート(座)の間にできるすき間に、身体や衣服などが、挟まらないように注意して操作してください。(身体や衣服を挟みケガをする恐れがあります。)

していただく

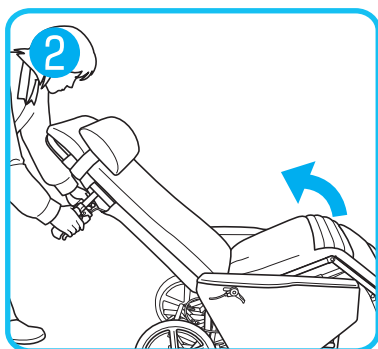
## ティルティングの操作方法

●座面の角度を0~30°の範囲で無段階に変更することができます。

① グリップをしっかりと持ち、右側レバーを握ります。



② 適当な角度に倒し(起こし)レバーを離すとその位置で固定します。



### ⚠ 注意

●車椅子に人が乗っていない状態でティルティング操作を行うと、レバーを握るだけで、バックサポートが自動的に起き上がりますので、注意して操作してください。  
(バックサポートパイプなどで、介助者の顔などを打ちケガをする危険があります。)  
●また、倒す操作を行うと、非常に重くなりますが、勢いをつけず、ゆっくり確実に支えて操作してください。(キャスト(前輪)が浮き、後方に転倒する場合があります。)

していただく

### ⚠ 警告

●車椅子に人が乗っている状態で、リクライニング操作、又はティルティング操作を行うときは、アームサポートと、バックサポート、シート(座)の間にできるすき間に、身体や衣服などが、挟まらないように注意して操作してください。(身体を挟みケガをする恐れがあります。)

していただく



## 座奥行の調整方法

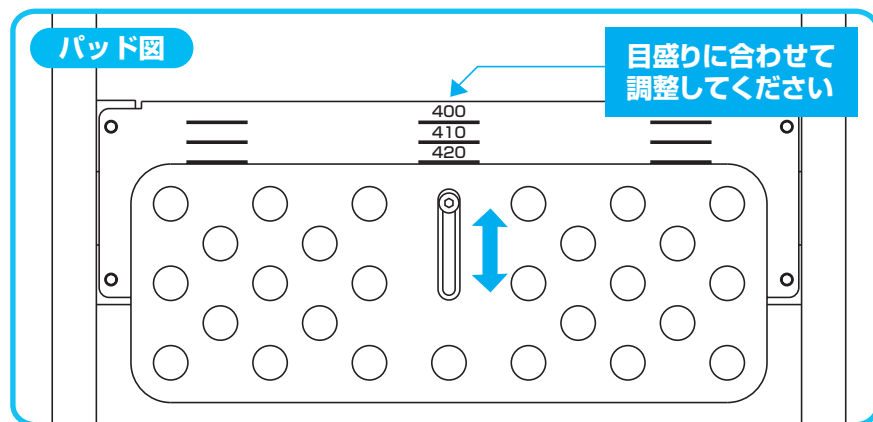
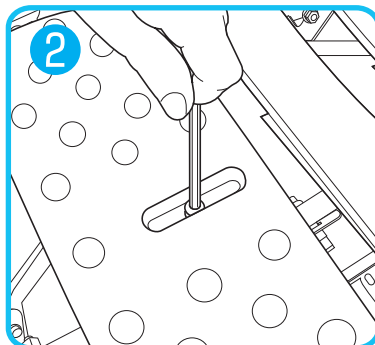
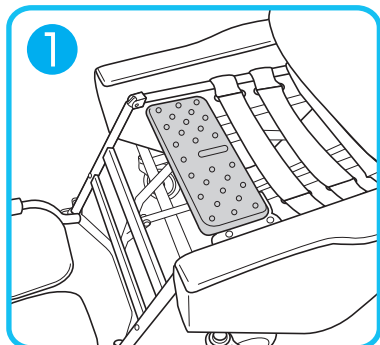
使用工具

・対辺4mm六角レンチ

●使用者の体格に合わせて、座奥行を400～420mmの範囲で調整することができます。

① シートクッションを取り外します。

② ボルトをゆるめ、パッドの位置を調整してください。



③ ボルトを締めてください。

※適正トルク 4Nm

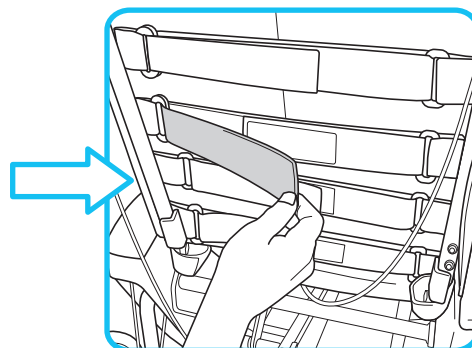
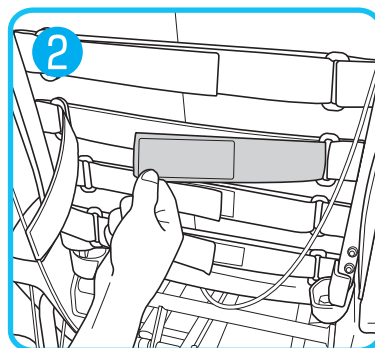
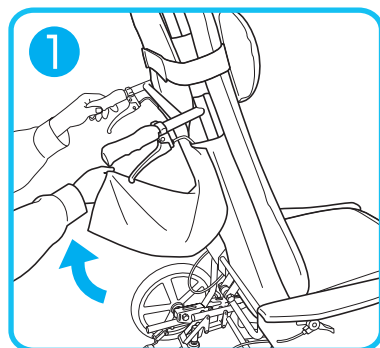
## シートの調整方法

●ベルトの張り具合を調整し、使用者の姿勢に合わせることができます。

〈バックサポート〉 ●車椅子に人を乗せた状態で、張り調整を行うことができます。

① 背シート後側のカバーをめくります。

② 張り具合を1本ずつ調整します。  
ベルトは、まず右側を貼り、次に左側を貼ってください。



〈座〉 ●車椅子から一度降りていただき調整してください。

① クッションをめくります。

② 張り具合を調整してください。

**注意**

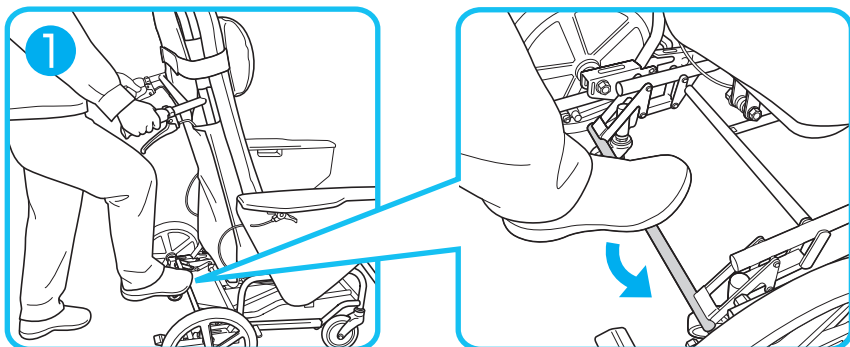
●ゆるめに張るとフレームと使用者の身体が干渉することがありますので、確認してください。

していただく

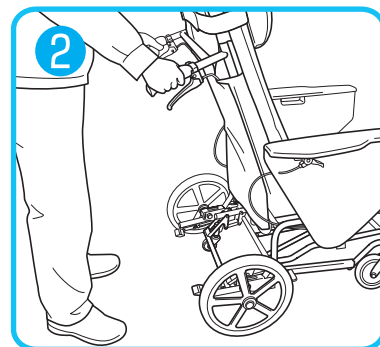
## リフトアップの操作方法

- 主輪を浮かせることで、真横にも移動することができます。ベッドなどへの移乗の際に、何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

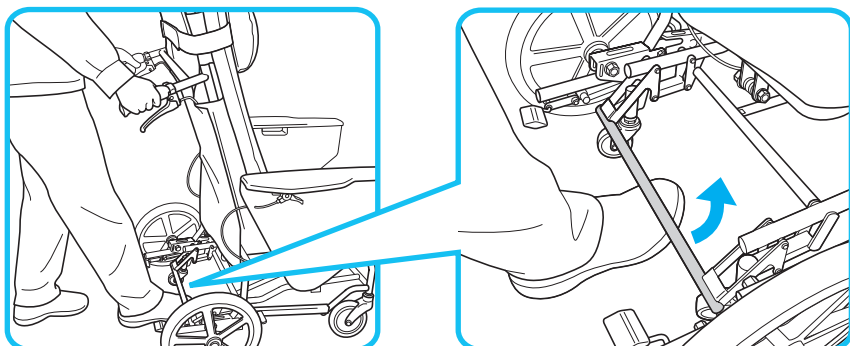
- ① グリップを持ち、車椅子が動かないようにしながら、リフトアップレバーを踏み込みます。



- ② 主輪が浮いたことを確認し、移動してください。



- 戻す時も、車椅子が動かないように、グリップを持ち、レバーを上げてください。



### ⚠ 注意

- リフトアップ操作時には車椅子から手を離さないようにしてください。  
(車椅子が動き危険です。)

していただく

### ⚠ 注意

- リフトアップした場合には、フットブレーキがロックされていても、主輪が浮いているため車椅子が動きます。人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車椅子が動かないことを確認してから行ってください。

していただく

### ⚠ 注意

- ブレーキペダルとリフトアップバーを間違えないように注意してください。  
(リフトアップ操作時にはブレーキが効かず車椅子が動きます。)

していただく

### ⚠ 注意

- アームサポートを持って車椅子を移動しないでください。  
(アームサポートが破損する原因になります。)

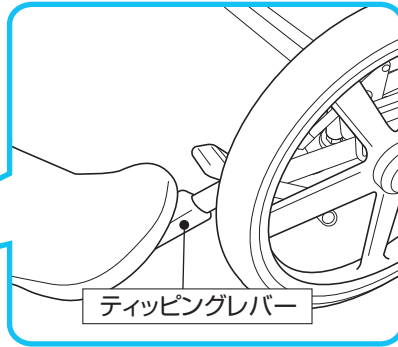
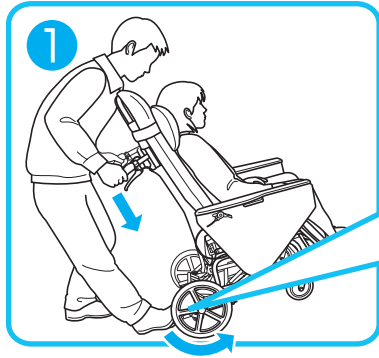
してはいけない

# 車椅子の使用方法

## 介助の方法

### 2～5cmの段差を乗り越える場合

① ティッピングレバーを踏みグリップを押し下げ  
キャスト（前輪）を上げてください。



② キャスタ（前輪）を段差に乗せて  
ください。



③ 主輪を段差に当て、押しながら  
乗り越えてください。



### ⚠ 注意

- バックサポートを起こしてから段差を乗り越えるようにしてください。  
（使用者がバランスを崩し、車椅子から転落する危険があります。）

していただく

### ⚠ 注意

- スピードをつけて（勢いをつけて）、段差を乗り越えないでください。  
（使用者がバランスを崩し、車椅子から転落する危険があります。）

してはいけない

### ⚠ 注意

- グリップのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。  
（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車椅子が破損し、転倒・転落事故等の  
原因となります。）

してはいけない

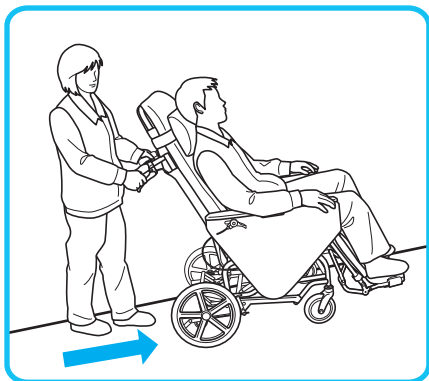
### 5cm以上の段差の場合

使用者を車椅子から降ろし、車椅子のみを4～5人でフレーム固定部を持って持ち上げ移動するようにしてください。

## 坂道の場合

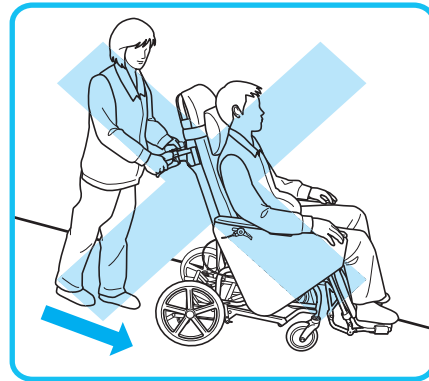
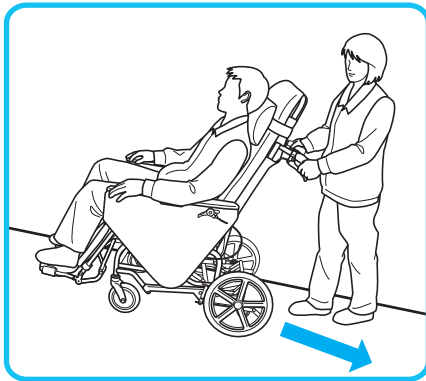
### 〈登り坂〉

ゆっくりと注意し前進してください。



### 〈急な下り坂〉

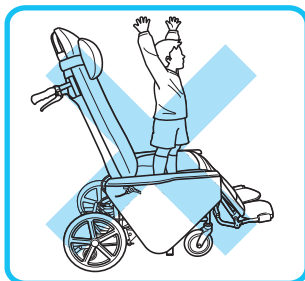
下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。



### ⚠ 注意

- 必ず車椅子をしっかりと支え、ゆっくりと走行してください。
- 坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。（前向きで下ると使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。）

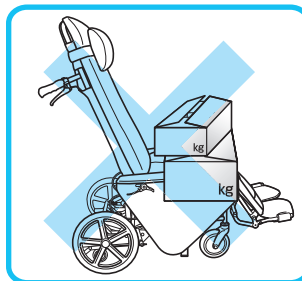
していただく



### ⚠ 警告

- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。（転倒・転落事故等の原因となります。）

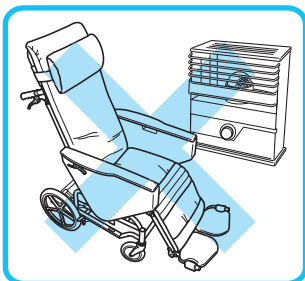
してはいけない



### ⚠ 注意

- 車椅子で荷物を運んだりしないください。

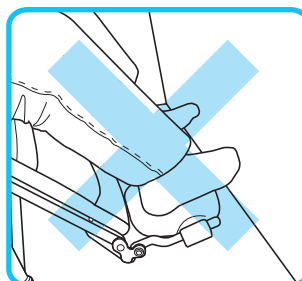
してはいけない



### ⚠ 注意

- ストーブなど火気の近くに置かないでください。（タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因になります。）

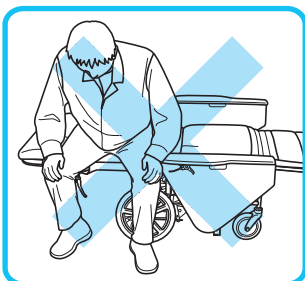
してはいけない



### ⚠ 注意

- フットサポートの上に足が乗っているか、確認して走行してください。（足がキャスト（前輪）や地面に触れてケガをする危険があります。）
- 移動中はつま先が壁などの障害物に当たらないように確認してください。（使用者がケガをする恐れがあります。）

していただく



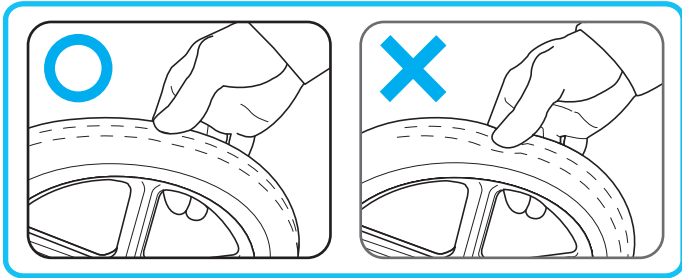
### ⚠ 注意

- リクライニングした状態で、バックサポートシートの上に乗らないでください。（車椅子がバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。また、バックサポートパイプが曲がったり故障の原因となります。）

してはいけない

## ご使用の前に

- 安全にご使用していただくため、次の確認をしてからご使用ください。
  - ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。 ・タイヤの空気圧は適正か。
  - ・フットブレーキに異常はないか。 ・フットブレーキをロックした時、主輪が回転しないか。

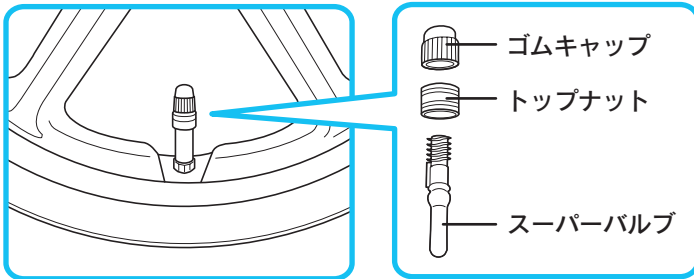


タイヤを親指で押して容易にへこむ場合は、空気を補充してください。

※適正空気圧 350kPa  
(3.5kgf/cm<sup>2</sup>)

タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



## 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(フットブレーキのロックができなくなり、車椅子が不意に動き事故等の原因になります。また、タイヤのパンク原因になります。)

してはいけません

## もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用中に「故障かな」と思われるトラブルが発生した場合、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処(参照ページ)
タイヤの空気が少ない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
タイヤの空気がすぐに抜ける	タイヤ空気入れ部のトップナットがゆるんでいませんか	締めてください (P16)
	スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください (P16)
真っすぐに走らない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	キャスト(前輪)、主輪はなめらかに回転しますか	糸くずや髪の毛などが巻かれている場合は取りのぞいてください
走行操作が重い	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	キャスト(前輪)、主輪はなめらかに回転しますか	糸くずや髪の毛などが巻かれている場合は取りのぞいてください
フットブレーキが効かない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	タイヤが摩耗していませんか	販売店までご連絡ください
	リフトアップしていませんか	リフトアップした場合はブレーキが効きません。リフトアップを解除してください (P13)
リクライニング操作ができない	ワイヤのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っかかりを直してください
	使用者の身体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
ティルト操作ができない	ワイヤのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っかかりを直してください
	使用者の身体や小物などが挟まっていますか	取り除いてください
	車椅子に人を乗せていますか	車椅子に人を乗せていない状態では、操作が重くなります (P13)

■異常、故障のある際は、直ちに使用を中止してください。



# 車椅子のお手入れの方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧、最適空気圧:350kPaを適正に保ってください。空気圧が少ないときは、補充してください。
- タイヤには、クラックを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O<sub>3</sub>)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))

- 車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・クラック・エアリー漏れ
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- 主輪・キャスト(前輪)の変形
- 各部固定部品の変形
- フレームのクラック・曲がり・ガタつき
- フットブレーキの効き具合

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 炎天下
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ

## 保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)  
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
  1. 火災、天災による故障・損傷の場合
  2. 取扱説明書に記載の使用方法及びご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
  3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
  4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、リクライニングティルト用ワイヤ、フットブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
  5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

### ■お問い合わせ

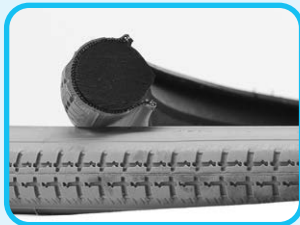


株式会社 松永製作所  
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484  
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270  
URL <https://www.matsunaga-w.co.jp>

# 空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

## 空気圧管理不要タイヤ

### 〈ハイブリッドタイヤ〉



### 安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、駆動輪・主輪は回転しないか。
- ・スポークの緩み、損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。  
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気圧管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。  
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、  
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと  
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

## 車椅子 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いします。

長期間で使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日					
		点検者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
後輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
操作部	可動部のがたつき						
	ボルト・ナットの緩み						
連結部	がたつき						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							

# <ガススプリングのご使用方法について>

ガススプリングを使用した車椅子を正しく、安全にご使用していただくために、下記をよくお読みください。



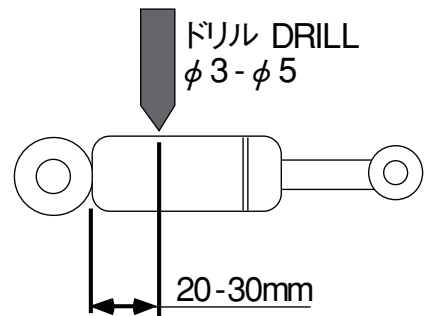
## ■ご使用上の注意



### 注意

高圧ガスが封入されています

- 分離したり火に入れないでください
- 廃却のときは、チューブの下部に穴をあけ、ガスを抜いてください
- このとき、オイルや切粉が飛散しますので、保護メガネを着用ください



## ■飛行機等への搭載

ガススプリングを使用した車椅子は、飛行機等に搭乗される際に「非該当証明書」の提出を求められる場合があります。非該当証明書が必要な場合には、(株)松永製作所までお問い合わせください。

(株)松永製作所(代表)

TEL:0584-35-1180 (平日 08:30 ~ 17:30)

<https://www.matsunaga-w.co.jp/>